midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

９月号の１枚：フォレストキッズスクールに大勢の小学生が参加

若者増加による当会の森林活動

純粋・素直・勤勉・向学心の青年が取り組む新しい森

20年前・当会発足当初の参加者は、十数人で殆どが土地の人か定年後の年配者であったが今は毎月100人前後。中・高・大学生・そのＯＢＯＧが80％以上を占めている。大学卒業後、各地優良林業者に就職するものも多いが最近「自分の育った土地の森を健全にしたい」とＵターンするOB・OGが増えて彼らはForesToClass、森と暮らすと名付けて後輩たちを指導している。NPO活動にも関わらず参加費を払って手弁当でやってくれるのも驚きだ。中には「活動費にして」と寄付まで出してくれる者もいる。

純粋・素直・勤勉・向学心の有る青年たちは、次々と新しい森を守る技術を開発してくれる。

森の現場で体験を通じて発見した事を検証のために学術書を読み、新技術を森に持ち込んで学者の理論が本物かどうかを検証している。若者たちは実学有ってこその理論と言う。慶大の福沢諭吉先生は「実学」の為に建学したし、二宮尊徳翁は「善き経済を創出が出来ない事業は絵空事だ。道徳無き経済は犯罪である」とも言われた。

朝日新聞報道によれば森林率はフィンランドに次いで先進国中、世界第2位・68.5％である。関わらずにも用材の約60％を外材に依存している。しかも違法伐採材が適法材に化けて入ってきているのを見逃がしている。

当会会員たちは、若者の力を借りて「森林・林業の復権」を目指して励んでいる。森は全ての生命の源だ。雨水を受けて炭素を固定化し酸素を供給してくれるだけでなく沢山のミネラル分を田畑に供給し、田畑の微生物を含む生き物が更に良き水となって海に注ぎ込む。海では豊かな魚介類を育ててくれる。森が健全でなければ全ての生き物は、死に絶えてしまう。にも変わらず我が国の食料自給率は40％以下。輸入食料は60％以上で国の浮沈に関わる問題に気付いて欲しい。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動 2016.09

9月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円

9月18日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]知足の森

8月7日（第一日曜日）

今月の第１日曜日の定例活動はフォレストキッズスクールと日程が重なったため、知足の森の活動のみ前日の６日土曜日に行いました。今回はその報告をします。

今回の活動には中学生、高校生合わせて７名が参加しました。この時期は熱中症が心配ということで、知足の森では沢沿いの竹林整備をすることにしています。昨年のこの時期にそれなりに作業していたので、今年は昨年ほどの絶望感はなく、ここまでできているのでここをやってしまおう、というモチベーションで取り組みました。しかしこの暑さですので、少し動くだけで滝のような汗が出てきてしまい、まだ日陰＋沢沿いということで作業は形になりました。竹林といっても、周辺から勢力を伸ばしてきた竹がスギヒノキ林を侵食しているという表現が適切な斜面なので、間伐というより、景観を損なわないような皆伐といった表現が適切かもしれません。我々が作業する以前にとりあえず切ってそのままという乾いて固くなっている竹の残骸も多いのでそれも片付けつつ、いい沢だねえ、という印象を持ってもらえるような作業を心がけています。一番大きい写真を見ていただくと分かると思いますが左半分は作業が終わり、本来のこの沢の景観だったであろう景色がありますが、右奥はまだまだ竹の勢力があります。今後はこちらの伐採を進めていこうと思います。これまでの作業で中学生もかなり経験を積んできているので、斜面は急ですが、やってくれると思います。

午後からは小原へ移動し、次の日からのフォレストキッズスクールで小学生が遊ぶ沢の整備をしました。先月までの下見で小さい枝が散乱していたりしていたので、それらを片付けつつ、というかそのあたりは小学生の気持ちとなってびしょ濡れになって遊んでいるといいますか、夏の森を楽しんでいました。先月発見したイノシシも無事に持ち帰っていたようですが、食べない部分をどうやら「捨てて」いったようでかなりの異臭があり、その場所をつきとめ土でうめました。マナーの悪い方がおり困ります。右下の写真を見ていただくと分かりますが、林道から沢へのアプローチがかなり急で写真右側がそのまま沢への崖になっているので、ここに手製のガードレールを作ることにしました。高校生で「主任」と呼ばれる生徒がささっと１本間伐し、その材を適当な長さに切り、杭を打ち、立派なものができました。当日も小学生が難なく通っていました。この間伐の様子は３６０度カメラを使い動画で撮影していますので、ぜひご覧いただき彼への技術的なコメントを寄せていただけるとうれしいです。素人目にはうまい、と思いますがきっとまだまだアドバイスはあると思いますので、さらなる技術向上を目指したいと思います。動画は会のYouTubeチャンネルで見れるようにしてあります。

知足の森はまだまだ作業を始めたばかりで毎回臨機応変に動くことが多いです。子どもたちにはその状況ごとに考えねばなりませんし、さらにそれに基づいて作業も行います。時間も限られているので、この時間までにどこまでやるか、次の定例までに何の準備がいるか、など多くのことを学ばせてもらっています。そんななか、フォレストノバのOBOG会であるForesToClassが活動する小原の森の地主さんとのミーティングに参加させていただく機会がありました。そこでちらっと見せてもらった地図に我々が認識していなかった区画ざっと5haに「長福寺」と書いてあり、まだ所有している森があるのか、と驚きとともにさらなる調査対象が増えたことになります。来月はその区画について調査してみたいと思います。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

8月21日（第三日曜日）

今月の相模湖・嵐山の森の定例活動報告はフォレストノバ新入生、いつまでも新入生ではありませんが、その１年生が挑戦してくれましたので掲載いたします。

まだ八月だというのに、嵐山には立派な栗の実がなっていた。猿が食い荒らしたあともあり、歴史の教科書で栗は縄文時代から食べられていたと書いてあったのを思い出す。長年にわたって、人間に食されてきただけでなく、生態系を支える存在としてあり続けた栗と森林保護を目指す我々の活動が重なるように思えた。と、物思いにふけっているのも束の間、今回のニュースレター担当の依頼が・・・。最近一年生の仕事多くないか？まあ、いつまでもそんなことも言ってられないか、 と気持ちを引き締める。

以下、今回の活動報告をしていく。８月２１日嵐山定例について。Forest nova☆では内野さん欠席のため、各班の活動の見回りを午前中に行い、午後はB地点の経路の整備と今後の活動の計画について話し合いを行った。経路整備では木の杭を打ち、後日腰痛になる。

お花畑班、活動場所にて梅の枝などを片付ける。大きい枝の処理は森林整備班に手伝っていただいた。活動場所では、ヤーコンの栽培や、バラのアーチ作りが行われていた。月に一度の活動でできることでテーマをもって活動されていた。草刈りなど暑い中大変な作業も多いので、水分補給などに気をつけたい。

森林整備班はぼさ刈り、経路の整備を行う。森林を楽しめる場所を作るというテーマをもって活動されていた。皆さん、自分より元気そう。

フォレストクラスでは、小原地域の萩山の整備を行う。自分達の大先輩。

地球環境部では間伐と製材を行う。間伐は午前中の作業のお手伝いをさせていただいた。 掛かり木で苦労した。僕は山椒の木のとげで怪我しました。皆さんも山椒には気を付けて・・・。製材の道具を初めて使った。扱い方をこれから覚えていく。

生命の森宣言東京では今回は初参加の方が女性１名、男性３名が参加して計１６名の参加となった。普段より多くの方が参加した。森での活動は初めてという方もいて、草刈りの体験などを行った。

木工班では木材の乾燥小屋作りが行われている。事情により参加できない方もいて、今回の参加者は少数となった。各班に分かれて活動してはいるが、それぞれの人が色々な活動に、もっと自由に参加できると良いと感じた。木材加工の他、倉庫の掃除、整理をした。

ニュースレターは初めて書かせていただきました。今回の活動はいかがでしたか？皆さんが、いつまでも楽しく活動していけることを願っています。

五味 輝史（Forest Nova）

[報告１]
相模湖・若者の森づくりから
～ForesTo Class

　私たちForesTo　Classは第１、３日曜日に小原地域の永井さんの山林である萩山にて活動を行いました。活動内容は、刈払機での下草刈りと間伐を行いました。

　暑い日が続き、集中力が低下してしまう中で、特に注意しなくてはならないのが作業中の怪我です。そこで、安全に作業していくために作業前後のミーティングと安全装備の徹底をしていく事にしました。

　作業前後のミーティングでは、作業の段取りを全員で共有し、作業種毎に起こり得る危険を話し合ってから作業に入ります。活動後には危険はなかったか、改善すべき事を振り返り、これらを活動記録として用紙に記入しノウハウを蓄積させていけたらと考えています。安全装備着用につきましては、間伐作業では、林業用ヘルメット、安全靴、特別な繊維の入っているチェーンソー用の防護ズボンまたはチャップス(前掛けタイプのもの)の着用、呼子の携帯を徹底して作業に当たります。

　ひとりひとりが安全への意識を持って、安全に、楽しく、活動していけるように取組んで行きたいと思います。

　齊藤　駿一（ForesTo Class）

[報告２]
相模湖・若者の森づくりから
～Forest Nova

　フォレストキッズスクールの翌々日、相模原市の大野台こどもセンターにて、大野台小学校の低学年生を対象とした木工教室を行いました。また木工教室にあたってForest Nova☆のメンバーだけでなく、首都大学東京の環境サークルnature（なちゅーる）からも学生が参加してくれ、９名の学生スタッフで木工教室を行いました。

　木工教室には児童49名が参加してくれました。まず、これから森について聞くという意識をしてもらうために、レクリーションの“猛獣狩り”をアレンジした“森に遊びにいこうよっ♪”を行いました。このレクリエーションでは、司会者のジェスチャーとフレーズに合わせ、子どもたちも同じジェスチャーやフレーズを言い、最後に森に棲む生き物を発表し、その文字数に合わせた人数でグループを作り、早さを競うというものです。発表した生き物は大野台こどもセンターの直ぐ近くにある“こもれびの森”にいる生き物で、レクリエーションだけでなく、実際の森に入って生き物を探してほしいと感じました。レクリーションの後には、木工の前置きとして子どもたちに森についてお話しました。その中で最初に身近な学校や家にあるもので木製のものが作られる過程を流し、何を作って

いるのか答えてもらいました。この問題に答えてもらう上で、身の回りにある木製のものを想像してもらい、改めて木製のものが身の回りに多くあることに気づいてもらうことが狙いでした。子どもたちは自分の頭をフルに回転させて、いっぱい木製のものを答えてくれました。その答えの中には「どうして知っているの！？」というものもあり、改めて子どもの想像力の深さに気づかされました。その後、森の効果や管理の必要性を話していき、最後に木工を行いました。木工では実際の暮らしの中でも使用でき、尚且つ作りがいや独自性が見られるメッセージボードを作りました。また木工も、木工だからこそ感じられる木の匂いやヤスリがけによる手触りの変化に気づきながら、納得のいく作品を作ってもらうことを意識しました。

　私ごとではありますがForest Nova☆に所属し、一番最初に企画した環境教育の企画を最後の年に統括として、一年生に担当を任せながら、企画を進むことができ感無量です。

　釜谷　優太（Forest Nova）

[報告３]
フォレストキッズスクール開催しました

真夏の日差しがぎらぎらと照りつける日々が続いております。８月７、８日の２日間でフォレストキッズスクールが開催されました。

当日は、早朝から相模原駅を出発し、バスで小原に移動しました。ここで、参加していた子どもたち２１人を４班に分けて開校式を済ませたあと、入山へ移動して水遊びをしました。子どもたちは上流の方を目指したり、小さなカニなどの生き物を捕まえたり各自工夫して遊び方を模索しているようでした。そのあと、小原の郷で昼食をとり、再び入山にはいって間伐体験をしました。２つのグループに分かれた子どもたちは、説明を聞いてから実際に一人ずつのこぎりを使って木を切っていきます。メキメキと音をたてながら豪快に倒れる木に子どもたちは目が釘づけでした。次に、畑に移動して野菜の収穫を体験させて頂きました。バスで相模原交流センターに移動して相模湖記念館を見学して、旅館「桂月」で少し休憩したあと、バーベキューで夕食をとりました。たくさん運動してお腹がすいた子どもたちは「待ってました！」とばかりにものすごい勢いで食べていました。私も肉を焼くのをお手伝いしたのですが、食べるペースに追いつかず、鉄板の周りには常に子どもたちの列ができていたことを覚えています。最後は子どもたちも後片付けをしてくれてとても助かりました。

２日目はラジオ体操のあと、朝食を食べて嵐山に移動しました。何度か休憩をとりつつも、なんとか無事全員で頂上に立つことができました。そのあとは嵐山基地にもどって竹細工で作ったそばちょこと箸で昼食をとりました。次にブルーベリー摘みをしました。そして、旅館「桂月」で閉校式を行い、バスで相模原駅に戻りました。バスの中でも子どもたちは歌を歌ったりしていてとても元気で、最後まで子どもたちのパワーに圧倒されました。

私自身、今回が初めての参加だったので森のことや子どもとの接し方など、学ぶべきことがたくさんあって充実した時間を過ごすことができました。今回のフォレストキッズスクールを機により多くの子どもたちが自然に興味をもってもらえたら嬉しいです。

服部　七星（Forest Nova）

当日の様子は写真、動画、位置情報を交えたMapTourで公開しています。

http://arcg.is/2bZJQRx

[報告４]
相模湖・若者の森づくりから
～地球環境部

地球環境部では２つの定例活動に加え、恒例の山梨県小菅村での強化合宿を行いました。４日間、現地のNPO多摩源流こすげのみなさんをはじめ、北都留森林組合、小菅きこりクラブのみなさんにもご指導いただきました。参加した中高生の感想をご紹介します。

今回２回目の参加でした。今回学んだことはロープを上に上げる技術です。ロープをゆるめて引っ張る、この作業はコツがなかなかつかめず難しかったです。先輩はすぐに上げられていたのですごかったです。先輩の動きを見ていると木にひっかかっているところが離れた時に引っ張っていました。木の皮むきも木が水を吸っていてむきやすく木を切るスピードも去年に比べて速くなっていたので自分の成長を感じました。ノコギリの刃を大きく動かして使えるようになったからだと思います。間伐では１本目は受け口を１人で作りました。１人でやるので緊張しましたが方向が少しずれてしまった以外は上手にできたと思います。２本目は追い口をしました。木がやわらかく感じ、いつもより早く切ることができました。

今回の作業では１人でやることが多く自分を見直すいい機会でした。自分を見直した結果、まだまだがんばらないと先輩には追いつ

かないと思いました。来年の参加のときには上手になっているようこれからの山での作業をがんばっていきたいと思います。（中学２年生男子）

合宿の林業体験は体験というよりは強化練習のようだった。自分１人で間伐をしたことが心に残った。いつも間伐をしているよりも細い木をあつかったので受け口が自然と小さくなる。切る長さが全く違うし、その長さが短いといえど疲れても全部自分でやらないといけない。ここで私にはわかったことがある。受け口の斜めの部分を切るのがとても苦手であることだ。ノコギリで斜めに切ろうとすると切り口がずれる。それでもがんばって続ける。切り口ががたがたになる。最初のほうはノコギリの角度が浅く皮だけ取れてしまうしその後深くすると切り口がずれる。今までは交代交代でやってきたのでこんなことはなかった。今回は自分の苦手がわかったので実り多い体験になった。普段の森の活動で改善できるように努力したい。（中学１年生女子）

私は２年ぶりの小菅村の活動だった。ノコギリも久しぶりだったので後輩に指導できるか不安でした。しかし実際林業体験をしてみたら２年のブランクがあってもやはり体が覚えていたためか難なく作業をこなすことができました。特に木を切る時、中学のときはある程度倒す場所を相談して決めていましたが、今回は木の重心、向き、枝の密集具合を１人で考えた上で切ることができたので、より間伐の技術を向上させることができたと思いました。私は将来大学に進学し環境に関わる仕事に就きたいと考えており、現在は伊豆大島で海の環境について学んでいます。小菅村では人が山に手を加えることにより多くの自然の恵みを授かることができる里山のはたらきについて多くのことを学ぶことができます。将来は地方のまだ開発が進んでいないところを小菅村のようにしていけるような活動をしたいと思っています。来年も小菅村で多くのことを学びたいと思っています。

竹原　司
（東京都立大島海洋国際高校３年）

活動の様子は先月号に写真を掲載しております。そちらもぜひご覧ください。またウェブでも活動報告をしておりますのでそちらもぜひご覧ください。

http://arcg.is/2c3KFZB

[事務局より]
イベントのお知らせ

９月１７日から３連休で、武蔵小金井駅南口宮地楽器ホールのイベントスペースで積み木のイベントを行います。これは小金市環境市民会議、同会に参加する東京学芸大学の学生、同大環境教育研究センターと協働で行います。イベントの企画、実施は同大の学生と本会地球環境部の中高生です。

ワークショップ形式でつくる法隆寺とフリーで遊べるスペースを予定していますので詳しくは小金井市報に掲載されています。チラシもできしだい本会ウェブ等で告知します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所